CHRISTMAS

クリスマス行事の思い出

見守られ、愛されて

幼稚園保護者　谷口 清二朗

今では遠い記憶となった幼稚園時代ですが、その中でも心に残っている場面があります。グラスに絵を描いてステンドグラスのような作品を作りました。私は星を描きたくて何度も挑戦しましたが、描き方が分からず困っていました。すると先生が隣にいらして私の手に手を添え、一緒に星を完成させてくださいました。光に透かすと、その星はキラキラと輝いて見えました。その光景と嬉しかったことを、今でもよく覚えています。

その時感じた安心感を、今、長女も同じように感じているのではないかと思います。長男もそうでしたが、幼児という時期の自由さや純粋さは特別で、幼稚園ではそれらを大切に、一人ひとりの個性に寄り添ってくださっています。のびのびと生活する子どもたちを見ると、私もいつも温かく見守られ、手を差し伸べていただいていたのだと改めて気づきます。

この温かさは、先生方だけでなく、学年を超えた仲間たち、そして、保護者と学院に集う多くの方々が一体となり、子どもたちを見守り、育んでくださっているからこそ生まれるものです。あの日、先生に手を添えていただいた私が、今、我が子も同じように見守られている姿を見ることができるのは、何よりの喜びです。

クリスマスは、神様が、イエス様を世にお遣わしになるほどに、私たちを見守り愛してくださっているということを教えてくれます。大きな愛の中で、今年も子どもたちと共にクリスマスを迎えられることに、心から感謝しています。

皆さんはクリスマスをどのように迎えますか？
青山学院では、幼稚園から大学まで、様々なクリスマス行事が行われています。
クリスマスツリーのきらめき、響きわたる讃美歌、仲間と過ごす特別な時間。
青学のクリスマスにまつわる思い出や喜びを集めました。

神様からのお役目

初等部６年　三田 真央

昨年のページェントで念願のマリア役を演じました。練習では、先生方からたくさんのアドバイスをいただき、家でも何度も練習しました。最初は言われた通りに動くだけで精一杯でしたが、毎日続けるうちに、ガブリエルの言葉を聞いて、マリアがどのようにおどろいて、とまどって、そして受け入れていくのか、マリア様が神様のお言葉を受け入れる気持ちを、だんだんと自分なりに感じられるようになりました。

「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」（ヨハネ3:16）という聖句を胸に、本番では、これまでの練習を信じて、マリア様のお気持ちになって演じることができました。婚約者ヨセフの故郷ベツレヘムに向かう「帰郷」の場面では、疲れと不安を、降誕の場面では、ほっとして、静かな喜びを感じながら演じました。

約一時間、舞台に立ち続けるのは大変だったけれど、マリア様はもっと大変だったはずです。どんな困難があっても、神様から与えられたお役目を最後まで果たさなければならないという責任感を深く感じました。この貴重な経験は、私に大きな感動と感謝の気持ちを与えてくれました。

CHRISTMAS

クリスマス行事の思い出

讃美歌の力

中等部３年　松本 梨咲子

皆さん、クリスマスおめでとうございます。突然ですが、皆さんにとってクリスマスとはどのような日ですか？プレゼントがもらえる日、美味しい料理を食べる日、大切な人と過ごす日など、人によって様々でしょう。

私にとってクリスマスは、凍える寒さの中で響くパイプオルガンやハンドベルの音色、讃美歌の歌声が、心を包み温めてくれる素敵な日です。特に中等部生全員が集う中等部のクリスマス礼拝では、その雰囲気をより感じられるでしょう。

そこで皆さんにお願いがあります。今回のクリスマス礼拝で歌う讃美歌の中から、お気に入りの歌を見つけて、声を出して歌ってみてください。人前で歌うことは少し恥ずかしいかもしれません。しかし700人以上の歌声が重なったとき、講堂には一体感が生まれ、クリスマスの本当の喜びが見いだせるはずです。

イエス・キリストの誕生から2000年以上の時を経た今も、その出来事は讃美歌を通して私たちの中に生き続けています。どうかこのひとときが皆さんの心に静かな光と温もりを届けてくれますように。

クリスマスの思い出

高等部１年　岸部 未來歩

私が一番心に残っているクリスマス行事は、中等部でのクリスマス礼拝です。中等部のクリスマス礼拝では、イエス様の誕生についての劇を行います。始めに大天使ガブリエルが登場し、マリア、ヨセフ、博士たちが登場します。そして聖書朗読とともにハンドベル部の演奏や、聖歌隊の歌声が青山学院講堂内に響き渡り、みんなで神様を賛美します。この劇の中で私が特に印象に残っているシーンは前方に座っている生徒たちが作る光の十字架のシーンです。講堂内が暗いのもあり静かに浮かび上がってくる光の十字架はとても迫力があります。クリスマス礼拝は静かで落ち着いた雰囲気の中、神様を賛美することができます。また中等部全体で作り上げる特別な礼拝でもあります。キャストの生徒はもちろん、それを指導してくださる先生やハンドベル部、聖歌隊、そして讃美歌を歌う全生徒、みんなで作り上げる礼拝です。私も献金係としてこの礼拝に参加しましたが、本当にいろいろな人に支えられてこの礼拝を作り上げることができました。そのことに感謝しながら過ごしていきたいです。

CHRISTMAS

クリスマス行事の思い出

栄光と祝福が見える時

経営学部１年　西野 優花

青山学院での13年間の中で特に思い出深いクリスマス行事は点火祭だ。点火祭は、まさに「地の塩、世の光」という聖句を体現していると思う。幼稚園から大学まで、異なる日常を過ごしている人々が交わり、共に神様を見上げて一つになる。この特別な時間こそが、青山学院を好きな理由の一つであり「あ、ここに居ていいんだ」と思える時だ。

初めて参加した初等部１年生の時、音と光に包まれる賛美に圧倒された。その一員に私もなりたいと思い、それ以来ハンドベルや吹奏楽で多くの奉仕に参加してきた。特に昨年は聖歌隊の背中を押すような歌声、光に照らされ輝くハンドベルを誇らしく演奏する妹の姿、ひたむきに演奏している初等部のパートナーさんの音色を感じながら、一緒に演奏することができ、恵みを感じた。そして、幼い頃に圧倒された光と音は神様の栄光と祝福だったのだと気が付いた。高等部生活の中で、キリスト教の知識は増えていたが、それだけでなく純粋に神様と向き合い、クリスマスの喜びを感じる幸せを再確認することができた。今年からは参加者として集う立場となるが、この先どんな困難があっても、共に歩んでくださる神様の大きな存在に支えられて歩んでいきたい。

※青山学院初等部の「パートナー」とは、1年生と6年生がペアを組み、1年間を通して一緒に過ごす制度のこと。昼食や遊びの時間を共にしながら、上級生が下級生を支える関係を築いている。